

令和6年度 大分大学学校推薦型選抜入試問題

小 論 文

(福祉健康科学部)

福祉健康科学科 社会福祉実践コース

解答時間 60分 (9時00分～10時00分)

配 点 100点

注意 解答はすべて解答用紙に記入すること。

令和6年度(2024年度)
大分大学福祉健康科学部 学校推薦型選抜入試問題
福祉健康科学科 社会福祉実践コース

問題 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

スクールソーシャルワーカー(SSW)は、子どものさまざまな課題を解決するため、学校や保護者、自治体の福祉部門などをつなぐ専門職だ。だが、人数が不足し学校での位置づけが不明確なため、十分に役割を果たせていない。そんな実態が、NPO法人の調査でわかった。

学校では教員が多忙で、いじめや不登校、虐待などを早めに見つけ、適切に対応するのが難しい場合がある。事態を悪化させる前に、専門知識をもとに対応方法を考え、学校を支援するのがSSWだ。子どもや保護者と面談し、心のケアについてスクールカウンセラーと連携したり、医療や福祉などの機関との調整を担ったりもする。

NPO「スクール・ボイズ・プロジェクト」の調査では、多くの教員が、SSWと連携すると精神的・時間的な負担軽減につながると答えた。だが大半のSSWは多くの学校を掛け持ちしている。1校あたりの滞在時間が週1時間未満の都道府県・政令指定都市・中核市が3分の1を占め、週5時間以上は5%だ。「勤務日数が少なく、情報共有や協働がしにくい」と考える教員が9割を超えた。

コロナ禍や物価高騰などで、家計や家庭環境が悪化した子どもは多い。不登校の子も増えている。複雑な問題になると、学校だけの対応は難しい。SSWが関わることで問題を解決できる可能性が高まり、教員の長時間労働の改善も期待できる。

国や自治体は、問題が多い学校に優先的に配置しつつ、増員に力を入れるべきだ。あわせて法的な位置づけを明確にして、学校外とやりとりする権限を十分に与える必要もある。SSWを務めるのは社会福祉士が多いが、その9割以上が、非正規雇用で年収は300万円未満という待遇の改善も欠かせない。子ども分野に関心を持つ福祉系の大学生は多いのに、就職を避けられる現状は放置できない。

中央教育審議会では、教員の働き方改革などについて議論が始まった。自民党の特命委員会が教員給与特措法の見直し案を示したため、処遇改善の行方にも注目が集まる。だが中教審では、多くの教員は処遇改善以上に、授業準備など本来業務に注力できる抜本的改革を求めている、といった意見が出た。

NPOの試算では、全小中学校約3万校にSSWを常駐させるには年1500億円が必要だという。一方、現実には、今年度の関連予算は国と地方分を合わせて約70億円だ。

未来を担う子どもたちが安心して学ぶことができるように、どこに重点を置いて予算を使うべきなのか。国は現場の声に耳を傾けながら議論すべきだ。

(朝日新聞 2023年5月28日朝刊より抜粋)

※承諾番号:24-1101

問 教員の負担増加が指摘される現状において、クラス担任の児童・生徒への個別指導の過重が生じている。教育と福祉の連携において、文章を参考としながら、求められる子どもへのケアについて、あなたの考えを600字以内（句読点を含む）で述べなさい。